



校長室だより

令和5年度

10月2日

NO. 25

「読書の秋」本の大好きな秦梨っ子に

9月28日、岡崎市の「学校図書館」の指導員の先生に来ていただいて、授業を見てもうもらいました。秦梨っ子には本の大好きな子がたくさんいて、自分から、進んで本を読める子もいます。1, 2年生の授業では、木河先生が「まほうのでんしレンジ」(たかおかまりこ作)のお話を、パネルシアターを使って、紹介してくれました。パネルシアターとは、特殊な布を巻いたパネルボードを用いた人形劇で、人形を張ったりはがしたり、動かしたりしながらお話を展開するものです。「まほうのでんしレンジ」に何も乗っていないお皿や入れ物を入れると、なんとそこに子供たちの大好きな食べ物が表れます。ワクワクドキドキしながら見ていた子供たちからは、その魔法に歓声が上がりました。

3年生では、自分たちでお話づくりをしました。「とうめいマスク」や「とべるたくわん」「食べられる絵のぐ」「ほうせきのながれ雲」など、題名を見ただけで、どれも読んでみたいお話ばかりです。まだまだ書き始めたばかりですが、お話の続きが楽しみです。こうして自分でお話を考えるには、その子の興味のあるものや好きなものが出てきたり、内容を展開させたりするにはその子の考えや思いが出てきます。自分の考えを伝えることはとても大事なことです。小菅先生の「好きなものが伝わってくるね」という言葉が、温かかったです。

4年生では、橋村先生がこの日の授業のために見つけてくれたたくさんの「金子みすゞ」と「まどみちお」さんの詩の中から、自分の好きな詩を選んで、詩の良いところを、伝え合いました。当たり前ですが、人それぞれ、好きなものは違って、それを素直に「好き」といえることは、実はすごく大事なことです。それがその人の個性を表します。「好き」ということを伝えるためには、その何がいいのか、どんなところがいいのか伝えなくてはなりません。それは、どれ一つとっても間違いがなく、これが正解という答えのないもの、「みんなちがってみんないい」ものです。秦梨っ子は、150周年記念式典でも「金子みすゞ」さんのお話が聞けますが、4年生のみんなも、みすゞさんの詩を選び、たくさんよいところを見付けました。また、みんなの好きなものを、お互い知ることも大事なことです。自分の好きなことがある、友達の意見を聞けることは、お互い仲間を知る楽しさにつながります。

「読書の秋」です。読書の楽しみ方はいろいろあって、人それぞれです。知らなかったことが知れたり、行ったこともない場所に行けたり、会ったことのない人に会えたり、考えつかない面白さがあったりと、本はいろいろなことを教えてくれます。また、みんなと読み比べるのも、何ページ読めるか挑戦するのも、家族みんなで読むのもいいと思います。ぜひ、もっともっと本が、読書が大好きな秦梨っ子になってほしいと思います。

